



今日のトピック 金融相場的な色彩を強める米国株式市場 ほどよい景気後退は織り込み済み

ポイント1

反騰した米国株式市場

実質金利が低下基調に大きく転換

- 7月の米国株式市場は、10年国債利回りの低下と期待インフレ率の緩やかな上昇を反映して、米実質金利が低下基調へ大きく転換したことで、グロス銘柄を中心に堅調となりました。米国の主要3指標はNYダウが前月比+6.7%、S&P500種指数が同+9.1%、NASDAQ総合指数が同+12.3%でした。

ポイント2

金融相場的な色彩が強まる

12カ月先予想EPSは前月比マイナス転換

- 株式と業績、債券価格との相関を調べると、7月は業績との相関がマイナスに転ずる一方、債券価格との相関を強めています。株式市場は業績見通しに一旦目をつぶり、足元の金利低下に着目することで、金融相場的な色彩を強めているようです。
- 現在、S&P500種指数採用企業の4-6月期決算発表が続いています。リフィニティブによれば7月29日の決算進捗率は56%で、増益率（当期利益）は前年同期比+7.7%です。ただ、エネルギーセクターを除くベースでは同▲2.6%と減益です。また、12カ月先予想EPSは7月末に前月比▲1.2%と20年5月以来のマイナスとなりました。業績は悪化傾向を示しています。

今後の展開

ほどよい景気後退を織り込む。もう一段の業績悪化には注意が必要

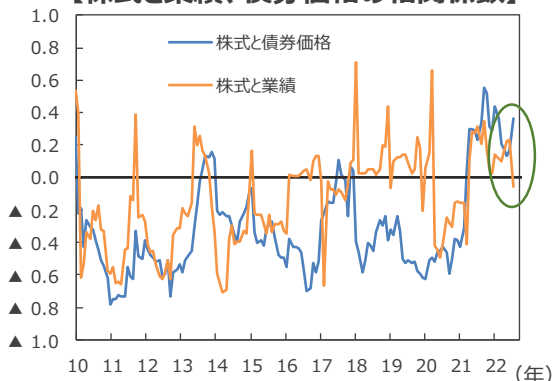
- 株式市場は2四半期連続して前年比マイナスとなった実質GDP成長率の発表などを受けて、ほどよい景気後退を織り込み続けているようです。ただ、今回のGDP統計では民間需要が鈍化していることが明らかになりつつあり、年後半に雇用の悪化を伴う景気後退に入るリスクがあります。
- 4-6月期の業績は悪化しましたが、年後半については少しずつ下方修正されている程度です。米国株式市場は当面、金利低下がけん引役となりそうですが、今後は本格的な景気後退と業績のもう一段の下方修正には留意する必要があります。



(注) データは2020年1月2日～2022年7月29日。グロス/バリュース比率はS&P500グロス指数と同バリュース指数を用い、2020年1月2日 = 100。実質金利は米10年国債利回り-期待インフレ率。

(出所) FactSetのデータを基に三井住友DSアセットマネジメント作成

【株式と業績、債券価格の相関係数】



(注1) データは2010年1月～2022年7月。

(注2) 相関係数は株式と業績（債券価格）がともに上昇/下落すればプラス。一方、業績（債券価格）が下落（上昇）して、株価が上昇（下落）すればマイナス。相関係数は12カ月間ベース。使用するデータはMSCI米国とBloomberg米国債インデックス（7-10年債）及び12カ月先予想EPS。

MSCI米国、Bloomberg米国債インデックスはトータルリターン。(出所) FactSet、Bloombergのデータを基に三井住友DSアセットマネジメント作成

ここも チェック!

2022年7月26日 2022年8月の注目イベント
2022年7月 4日 業績の下方修正を織り込む米国株式市場

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友DSアセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。